

はじめましての方も、どこかでお目にかかった方も、そしてこの場所に今年も再びお越しくださった方も。みなさま、こんにちは。瓜生裕樹です。晩夏の小樽の街へ、『2012 小樽・鉄道・写真展』へ、ようこそ。そして、僕の作品に足を止めてくださり、本当にありがとうございます。

今年で13回目の開催となる、この『鉄道展』。僕も12年間、夏の終わりをこの旧手宮線で過ごしています。

列車の姿は消えても、街の中に、そして人々の中に残り続ける鉄道。小樽の歴史の記憶を宿すこの他に二つとない場所に、今年も帰ってきました。

もちろん持ってきたのは、小樽の街で撮った写真です。今年は3年振りに、銀塩(フィルムで撮り印画紙に焼く)・自家現像のモノクロ作品です。僕はもともとほとんどの作品をこのスタイルで作っていますが、鉄道展では少し趣向を変えてこの2年間を経て、再び僕の原点でもあり、この春開催した個展『Daily Mirror-日々は鏡写しのよう-』同様、フィルムで、モノクロの作品をつくりました。

小樽に限らず僕が撮り歩くテーマとしている"街"もまた、光と影でできています。

写真を撮ることは「撮影」ですし、たくさんの記憶を宿す様を「面影」と呼びます。影という文字は光によってできる影ばかりではなく、心情的、感情的な意味をも秘めている。この二つの意味が影という文字に込められているのは、何だか不思議なことでもあります。

街撮りは、影踏みのようなもの。すぐに影の姿は変わり、二度と同じかたちをそこに映すことはない。だから何度同じ街を歩いても飽きないし、終わりはありません。

今回の12枚の写真の中には、いくつかの空き地が写っています。それらはどれもこの街の歴史を刻んできた建物があった場所でした。僕はそれらを撮って残してはありますが、今こうして"面影"となった光景を見つめることから、小樽の記憶をこの先につなぐことができたらと思ったのです。

街は生きている。たくさんの記憶の上に立つ小樽もまた、いまを生きている街です。

変わっていくことに一抹の寂しさを抱きながら、でもこうしてカメラを持ち、記憶のための記録ができることは、小樽を愛する人としてとても幸せです。

たくさんの光と影を、『街影』を、僕はこれからも撮り続けます。

Webでもお読みいただけます www.yuukiuryu.com/otaru2012/

僕の作品、そしてこのフリーペーパーへのご感想・メッセージを、本誌と同じ箱の中の感想ノート、または下記のメール・Twitterに、ぜひお寄せください。

『tetsurocafe』は、瓜生 裕樹の『小樽・鉄道・写真展』の"お持ち帰りいただける作品"です。

9年目の発行となる今年も、第1週と第2週、計2号を発行します。

次号は9月3日(月)に発行予定です。

tetsurocafe2012 vol.1 2012年8月27日発行

発行者 瓜生 裕樹 ウリュウ ユウキ

www.yuukiuryu.com hello@yuukiuryu.com Twitter @yuukiuryu

© Yuuki URYU 2012 All rights reserved.

Take it FREE!

ご自由にお持ち帰りください

1

tetsurocafe
Yuuki URYU's Extra Free Paper
for "2012 Otaru Tetsuro Shashinten"
2012



まちかげ

街影を踏む